

玄関 「げんかん」

玄妙な道に入る関門

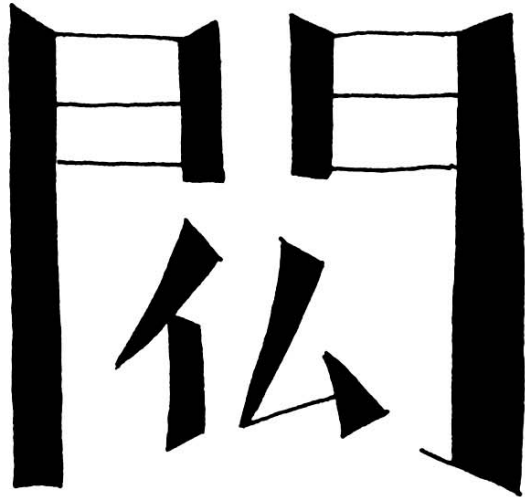
家の正面の入り口を玄関と呼んでいます。表入口という意味なのでしよう。見栄を張って外観だけを豪勢にみせようとするのを「玄関を張る」といい、面会させないで客を帰らせることを「玄関ばらい」といいます。

この玄関が仏教語なのです。本来は建物の名前ではなく、玄妙な道に入る関門という意味で、奥深い教えに入る手始め、いとぐちを指していました。「仏門に入る」などがそれです。

この仏教語が建物の名前となり、禅寺の客殿に入る入り口を指すようになりました。

やがて、室町時代から桃山時代にかけて盛んになった書院造りに、その形式がとり入れられました。が、まだ庶民住宅には造ることを許されていませんでした。

江戸時代になって、民家や一般の建物にも広まり、明治以降は現在のように、正面入り口を呼ぶようになりました。



「玄関」を
一字で表すとしたら。